

事例番号 028 七日町大正浪漫溢れるまちづくり(福島県会津若松市・七日町地区)

1. 背景

会津若松市は、福島県の西部、会津盆地の東南に位置し、東は猪苗代湖を境とし、南は布引山や大戸岳などの山々を境とする、人口13万人の都市である。土地の歴史は古く、古事記や日本書紀にも「相津」(東と北の出会いとこ)の名があるが、現在のまちの基礎は1590年に豊臣秀吉の命で当地に入った蒲生氏郷が築いた城下町にある。街なかには会津漆器や会津絵ろうそく等の地場産品の小売店、田楽や郷土料理店、造り酒屋などが立ち並ぶ。市内には、幕末の戊辰戦争の一舞台となった鶴ヶ城や白虎隊士墓所のある飯盛山など多くの観光スポットがあり、近郊には東山、芦ノ牧温泉があるなど、会津若松市は観光を中心に発展してきた町でもある。2005年12月1日現在の人口は131,196人であり、会津地方の中心都市として周辺町村から通勤・通学者等が流入している(なお2004年11月に旧北会津村と、2005年11月に旧河東町と合併した)。

会津若松市の中心市街地の中で古くから旧越後街道沿いの玄関口として栄えてきた七日町は、大正から昭和初期にかけて市内における有数の商店街として賑わいを見せた。しかしながら1958(昭和33)年に神明通りに東北初と言われるアーケード商店街が完成すると、商店街の中心はその地域一帯へと移行し、七日町は次第に衰退してきた。昭和40年代に入ると郊外に大規模住宅団地や工業団地が開発され、モータリゼーションも著しく進んだことから、中心市街地の商店街からは次第に賑わいが消えていったが、その中においても七日町はその度合いがとりわけ大きかった。最近では消費活動の広域化が一層進んでおり、会津若松市の消費は郡山市、新潟市、仙台市など近隣の都市圏へ流出する傾向が出てきている。2004年度の会津若松市の小売販売額(1,585億円)は5年前の1999年と比べて13.7%の減少となった。

このような状況に対処するため、会津若松市は市内に残る豊富な観光資源を活用して観光客をまちなかに呼び込むことで中心市街地の活力を回復する戦略を採った。そして、七日町においても大正から昭和初期にかけて建築された趣のある建築物を活用して商店街の活性化を図ることとなった。本稿ではこの七日町地区の取り組みを紹介する。



会津若松市の位置
(資料…会津若松市ホームページ)



2. 目標

第五次会津若松市長期総合計画『会津まちづくり物語 ～元気・創造～』は、まちづくりの理念を「市民がともに誇れる会津若松の創造」とし、まちの将来像を「歴史・自然・文化がいきづく夢と活力のあるまち会津若松」とした。そして、まちづくりの基本目標を「会津ブランドをいかした元気なまちづくり」とし、それを実現するために、「ひと」を思いやり「まち」を愛する気持ちを『おもてなしの心』というキーワードに託しつつ、以下の6つのまちづくりビジョンを掲げた。

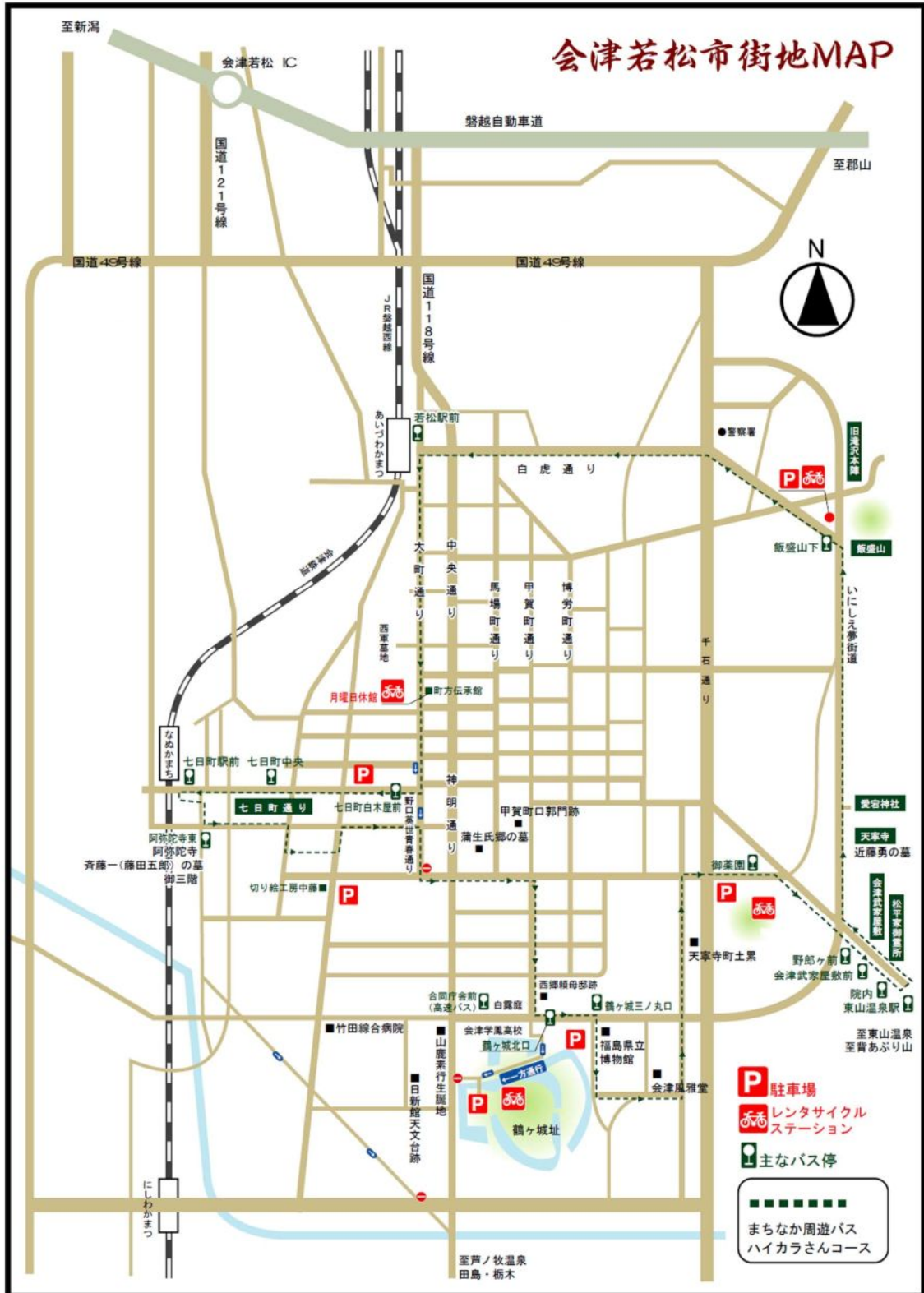
- ① 豊かな自然の中で人が輝いて生きていく『共生のまち』会津若松
地球環境保全、資源循環型地域社会、人と自然の共生、すべての人の尊重、心のふれあい、安心安全
- ② 希望に満ちていきいきと暮らせる『福祉のまち』会津若松
やさしさと思いやり、のびやかな子どもを育てる、高齢者がいきいきと暮らせる生涯にわたる健康づくりと医療体制の充実
- ③ 活力と個性にあふれる『産業のまち』会津若松
観光振興、商工業振興、中心市街地活性化、地域資源をいかし魅力ある農林業雇用安定確保、労働福祉充実
- ④ 美しく住みやすい『快適なまち』会津若松
花と緑と潤い、良好な市街地、良好な住環境、都市交通対策、情報基盤整備
- ⑤ 人を育み心を大切にする『学びのまち』会津若松
誰もが自由にいきいきと学べる、心豊かでたくましい子どもが育つ歴史と文化が人を育む、スポーツ・レクリエーション振興、歴史・文化を継承し個性豊かな文化活動展開
- ⑥ みんなでともに創り行動する『協働のまち』会津若松
地方分権時代に対応、新たな連携と交流

さらに、まちづくり重点戦略として、①美しい環境のまちづくり戦略、②賑わいのある観光のまちづくり戦略、③新たな窓を開く情報化のまちづくり戦略、④次代を担う人づくり戦略、の4つを提示したが、③においては「歴史的な観光資源を結ぶネットワーク化」や「歩いて楽しめるまちなか観光の推進」を掲げた。

一方、中心市街地活性化基本計画『城下町回廊の賑わいー生活圏づくり・交流圏づくりによるまちなか再生ー』は、目標に居住環境の整備とまちなか観光の推進とを掲げ、前者に関しては中心市街地に生活する高齢者等の居住環境の整備も視野に置いて安心して快適に生活できる「暮らしの場」づくりを図ることとし、後者に関しては中心市街地に分布する様々な観光資源を活用して年間300万人以上訪れる観光客と地域住民とのふれあいのための「賑わいの場」づくりを図ることとした。それらにより、「これまで培ってきた歴史や文化、人と人とのふれあいを大切にし、いつまでも暖かく包んでくれる界限づくり」を進め、「生活者や来訪者、観光客が歴史や文化に触れ、交流することにより、かつての城下町の通り、辻が賑わう中心市街地」の形成を目指すこととした。

以上、どちらの計画も市内に残る歴史資産を観光資源として活かすことを重視しているが、この会津若松市の中心に位置する七日町で1994年に設立された「七日町通りまちなみ協議会」は、趣

のある建築物を保存しつつ城下町らしい特色のある商店街と地域コミュニティとを再生させることを活動の目標とした。



(資料:財団法人 会津若松市観光公社ホームページ)

3. 取り組みの体制

(1) 「七日町通りまちなみ協議会」

古い建物を活用して歩いて楽しめるまちづくり等に取り組むため、商店街で旅館と郷土料理店を経営する老舗店主が中心となって1994(平成6)年に「七日町通りまちなみ協議会」が結成された。まちの修景作業、空き店舗対策、各種イベントを通じて「通り」の活性化を図っている。行政、NPO、市民、民間企業、専門家等各主体との協働体制をとっており、現在、会員は101名である(物品小売36名、飲食店16名、サービス業12名、その他37名)。役員は、会長1名、副会長4名、幹事16名、監事2名で構成されている。エリアごとに5名の地区幹事を置いている。市は建物改装に対する助成、市道の整備及び案内板の設置等の様々な支援を行っている。

(行政支援の例)

- ① 景観協定の締結先及び修景等への助成(会津若松市都市計画課)
- ② 商店街空き店舗対策事業補助金(県、市商工課)
- ③ イベント事業補助金(市商工課)

協議会では地元との連携を掲げる県立会津大学の協力を得て、大正浪漫が漂う街並みをコンピュータグラフィックスで表現した。そのことを契機に、それまで消極的であった商店主たちから街づくりに対する理解が進んだ。

(2) 「柗まちづくり会津」(TMO)

1996(平成8)年4月、青年会議所、商工会議所青年会、大学教授、行政職員により「まちづくり研究会」が発足し、月2回程度の勉強会を開催した。また、1997(平成9)年3月、まちづくり研究会の呼びかけで「まちづくりネットワーク協議会」が結成された。協議会には以下の団体が参加した。

〔「まちづくりネットワーク協議会」参加団体〕

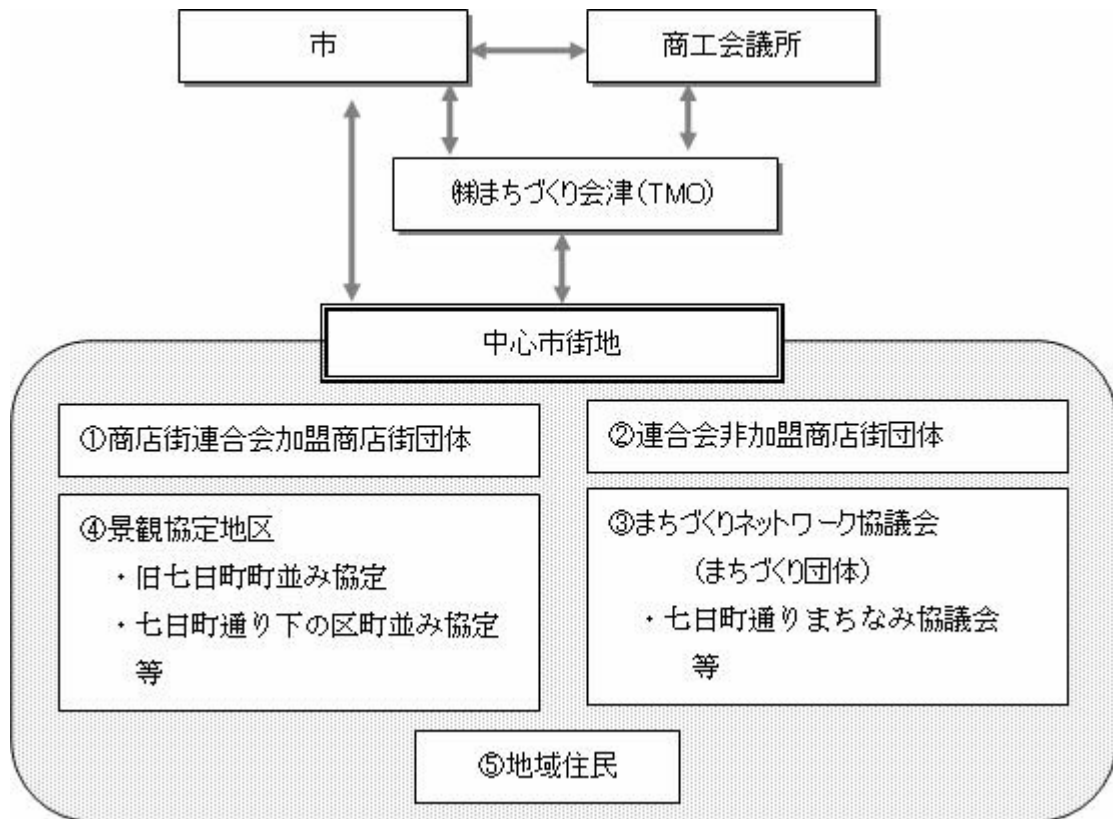
野口英世青春通り協議会 博労町通り町並み会 会津ふれあい通り大和町桂林寺商店会
大町通り Anessa Club 七日町通りまちなみ協議会 鶴ヶ城通りまちなみ協議会

さらに、1997(平成9)年9月、まちづくり研究会、まちづくりネットワーク協議会により「(仮称)会津まちづくり会社設立準備会」が開催され、1998(平成10)年4月に商工会議所を中心に改めて「会津まちづくり会社準備会」が結成された。そして、同年7月、「株式会社まちづくり会津」が地域の事業者等148人(法人)及び市(200万円、出資率6.42%)の出資によって設立された(資本金3,115万円)。同社は1999(平成11)年5月にTMOに認定された。

〔柗まちづくり会津の概要〕

- ・ 資本金58,300,000円、出資者151名(2005年現在)
- ・ 代表取締役; 渋川恵男(会津若松商工会議所副会頭、七日町通りまちなみ協議会会長、(有)渋川問屋代表取締役)
- ・ 事業内容; 基本的方針の策定(TMO構想)、計画の策定(TMO計画等)、事業の提案、実験的事業の実施、事業の実施・運営、意見の集約、助言・指導、情報提供

㈱まちづくり会津と他組織との関係



4. 具体策

(1) 概要

七日町通りでは、「七日町通りまちなみ協議会」を中心に、1990年代、全く人通りがなくなった商店街に人を呼び込む方法として、店舗の外観を「大正浪漫溢れるまちづくり」のコンセプトで改修してまちのイメージを変えることを考えた。そして、1960年代、70年代の高度成長期の名残りである画一的なモルタル造りの外観やシャッターを取り外し、幸いにもその下に残っていた大正・昭和初期の古き良き時代を彷彿とさせる木造建築に再生させるまちづくりに取り掛かった。同地区の景観協定が市に認定されたことを契機に、補助金を投入してそれらの素材に手を加えることで、街並みを再構築した。その結果、現在では七日町通りはまちなみ観光の拠点として年間25万人の交流人口を呼び込むようになった。現在も、今後の少子高齢化社会を見据えて、地元の人が安心して訪れることができる「歩いて暮らせるまちづくり」を目標に活動を続けている。

(2) 景観協定に基づく景観形成

会津若松市は1992(平成4)年度に会津若松市景観条例を施行した。この条例にもとづき、景観づくりに積極的に取り組む商店街やまちづくり団体が結ぶ景観協定(建物の形態・色彩、緑化等のルール)を認定し、建物の外観の修景や道路に面した部分の緑化等に対し助成を行っている。

2005年時点で会津若松市の「景観協定地区」は11地区となっている。七日町では1995(平成7)年に「旧七日町町並み協定」及び「七日町通り下の区町並み協定」が、翌1996(平成8)年に「七

日町中央町並み協定」が締結された。市の景観協定にともなう助成制度(会津若松市景観条例第16条及び第34条)で実施された「景観協定地区内修景」は市全体では97件、七日町では47件となっている(2005年12月現在)。



景観協定パンフレット (資料:会津若松市「景観からのまちづくり」)

(3) 商店街活性化のための拠点施設整備等

① 「七日町ローマン小路整備事業」

2001(平成13)年度に会津若松市単独で実施された道路整備事業である。七日町テナントミックス事業や民間での空き店舗対策事業とあわせて通りの魅力を高めるために景観舗装を実施した。

② 七日町テナントミックス事業「アイバッセ」

1999(平成11)～2001(平成13)年度に経済産業省の補助により行われた事業である。事業主体はTMOで、大正浪漫調のコンセプトにより整備を進める七日町通りで不足する業種・業態のテナントを空き店舗を活用して配置し、通りの魅力向上を図った。

③ 七日町浪漫ステーション開発事業「駅カフェ」

2001(平成13)年度に県・市の補助で行われた事業である。事業主体は七日町通りまちなみ協議会であり、JR東日本の支援を受け、無人駅であったJR七日町駅舎を大正浪漫調の洋館に改修し、会津地方の特産品のアンテナショップを設けた(2002(平成14)年7月オープン)。七日町通りまちなみ協議会を主体とした「アンテナショップ運営委員会」が運営を行っている。

④ 景観形成事業(七日町通り等)

1995(平成7)年度から市の補助により行われている事業である。事業主体は民間で、各通りのコンセプトに即した街並みの修景や店舗の改修等により、まちなか界限スペース、歩行者空間を整備するなど、商店街の魅力づくりを図っている。

⑤ 「会津ブランド館」

上記補助金を活用して2004(平成16)年9月、「大正浪漫調」をコンセプトに空き倉庫を改装した「会津ブランド館」がオープンした。会津地方の市町村が連携した「会津ブランド認定品」「地場産品」など伝統工芸品から新しい試みのデザイナーズブランドまで、地元で作られている“いいもの”を一堂に集めた展示・販売スペース、会津の伝統料理とともに会津地方が誇る36の蔵元の代表的な地酒や会津各地でつくられているジュースを販売するショットバーなどがある(試飲可)。

会津若松市では、上記の他、「まちなみデザイン推進事業」(旧建設省、現国土交通省)、「地域づくりサポート事業」(福島県)、「空き店舗対策事業」、「まちなか観光推進団体」の認定等が行われている。

5. 特徴的手法

街並みを整備して人の流れを呼び込みまちの活性化を図るという考え方は、実際に年間約25万人の交流人口を生み出したことから見て、有効であったと言える。この成功は七日町通り全体の刺激になっているとともに個店のまちづくりに対する意識改革にもつながっている。また、七日町は人が集まる地域との評価を得られたことにより、地域外からの出店者も増え、空き店舗の数も減ってきている。

成功のポイントとしては、①自発的に熱心にまちづくりに取り組む人材(リーダー)が中心となって協議会の活動を推進したこと、②旧建設省のまちなみデザイン推進事業の助成対象団体に選ばれ、始動時の推進力となったこと、③ハード面における市民や行政の協働があったこと、等が挙げられる。

6. 課題

今後さらに快適で生き生きとした町にしていくためには、七日町周辺の定住人口を増やすこと、高齢者等が安心して買い物ができる商店街づくりを進めること等への一層の取り組みが求められる。七日町通りまちなみ協議会は、歩行者を中心としたまちづくりを考えなければならないとの考えに基づいて、メインストリートの県道252号の整備を地域住民の理解を得つつ県とともに推進していく方針である。また、整備の範囲を線(大通り)から面(路地裏等)へと広げ、町全体の魅力を発信し回遊性のあるまちづくりを展開したいと考えている。なお、当プロジェクトの成果を他の商店街に波及させていくためには、各商店街の温度差の解消、意欲の喚起、まとめ役となる地域リーダーの発掘、人材育成等が必要であると考えられている。

(参考・引用文献)

会津若松市ホームページ



蔵を活用した店舗



アンテナショップ“駅カフェ”



街角にある広場



会津ビアホール



小路の美装化と街並み



レオ氏郷南蛮館